［毒物及び劇物に関する法規］

（問１）から（問１５）までの各問について、最も適切なものを選択肢１～５の中から１つ選べ。
この問題において、「法」とは毒物及び劇物取締法（昭和２５年法律第３０３号）を、「政令」とは毒物及び劇物取締法施行令（昭和３０年政令第２６１号）を、「省令」とは毒物及び劇物取締法施行規則（昭和２６年厚生省令第４号）をいうものとする。
また、毒物劇物営業者とは、毒物又は劇物の製造業者、輸入業者又は販売業者をいう。

（問１）　次の記述は、法第１条及び第２条の条文の一部である。（　ア　）～（　ウ　）にあてはまる語句の組合せとして正しいものはどれか。

第１条　この法律は、毒物及び劇物について、（　ア　）の見地から必要な（　イ　）を行うことを目的とする。
第２条　この法律で「毒物」とは、別表第１に掲げる物であつて、医薬品及び（　ウ　）以外のものをいう。

	（　ア　）	（　イ　）	（　ウ　）
１	保健衛生上	規制	医薬部外品
２	保健衛生上	取締	医薬部外品
３	保健衛生上	取締	飲食物
４	公衆衛生上	取締	医薬部外品
５	公衆衛生上	規制	飲食物

（問２）　法第３条の４において、「引火性、発火性又は爆発性のある毒物又は劇物であつて政令で定めるものは、業務その他正当な理由による場合を除いては、所持してはならない。」と定められている。
次のア～エのうち、この「政令で定めるもの」として正しいものの組合せはどれか。

ア　ピクリン酸
イ　酢酸エチル
ウ　トルエン
エ　亜塩素酸ナトリウム

１（ア、イ）　２（ア、ウ）　３（ア、エ）　４（イ、ウ）　５（ウ、エ）

（問３）　毒物劇物営業者に関する次のア～ウの記述について、正誤の組合せとして正しいものはどれか。

ア　毒物又は劇物の製造業者でなければ､毒物を販売の目的で製造してはならない。
イ　毒物又は劇物の販売業者は、販売しようとする毒物又は劇物の個々の品目について登録を受ける必要がある。
ウ　毒物又は劇物の輸入業者は、毒物劇物販売業の登録を受けなければ、その輸入した毒物又は劇物を他の毒物劇物営業者に販売することができない。

	ア	イ	ウ
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

（問４）　毒物劇物営業者に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。

ア　毒物又は劇物の製造業の登録を受けようとする者は、製造所ごとに、その製造所の所在地の都道府県知事を経て、厚生労働大臣に申請書を提出しなければならない。
イ　毒物又は劇物の販売業の登録の更新には、登録の日から起算して６年を経過した日の１月前までに、登録票を添えて登録更新申請書を提出する必要がある。
ウ　毒物又は劇物の製造業の登録では、一般、農業用品目、特定品目で登録の種類を分けている。
エ　毒物劇物営業者は、登録票の再交付を受けた後に失った登録票を発見したときは、これを返納する義務はない。

１　なし　　２　１つ　　３　２つ　　４　３つ　　５　４つ

（問５）　毒物又は劇物の製造所の設備の基準に関する次のア～ウの記述について、正誤の組合せとして正しいものはどれか。

ア　毒物又は劇物を陳列する場所にはかぎをかける設備がなければならない。
イ　毒物又は劇物を貯蔵する場所が性質上かぎをかけることができないものであるときは、その周囲に、堅固なさくが設けてあればよい。
ウ　毒物又は劇物の製造作業を行う場所には、毒物又は劇物を含有する粉じん、蒸気又は廃水の処理に要する設備又は器具を備えなければならない。

	ア	イ	ウ
１	正	正	正
２	正	誤	正
３	正	正	誤
４	誤	正	誤
５	誤	誤	正

（問６）　毒物劇物取扱責任者に関する次のア～エの記述について、正しいものの組合せはどれか。

ア　毒物劇物営業者は、自ら毒物劇物取扱責任者となることができる。
イ　毒物劇物営業者が、毒物劇物製造業及び毒物劇物販売業を併せて営む場合において、その製造所及び店舗が互いに隣接している場合にあっても、毒物劇物取扱責任者は、それぞれ専任の者を置かなければならない。
ウ　毒物劇物営業者が、毒物劇物取扱責任者を置いたときは、３０日以内に、その毒物劇物取扱責任者の氏名を届け出なければならない。
エ　一般毒物劇物取扱者試験の合格者は、特定品目販売業の登録を受けた店舗の毒物劇物取扱責任者となることはできない。

１（ア、イ）　２（ア、ウ）　３（ア、エ）　４（イ、エ）　５（ウ、エ）

（問７）　毒物劇物取扱責任者に関する次のア～エの記述について、正誤の組合せとして正しいものはどれか。

ア　劇物に該当する農薬を使用する農家は、毒物劇物取扱責任者の設置が必要である。
イ　薬剤師は、毒物劇物取扱者試験に合格しなくても毒物劇物取扱責任者になることができる。
ウ　毒物劇物取扱者試験に合格しても、１７歳の者は毒物劇物取扱責任者になることができない。
エ　毒物劇物販売業の登録を受けている店舗において、毒物又は劇物の取扱業務に５年以上従事した者は、毒物劇物取扱責任者になることができる。

	ア	イ	ウ	エ
１	正	誤	正	正
２	正	正	誤	正
３	誤	正	正	誤
４	誤	正	誤	正
５	正	誤	正	誤

（問８）　次のア～エのうち、毒物劇物販売業の登録を受けた者が、都道府県知事（その店舗の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長）に、３０日以内に届け出なければならないものとして、正しいものはいくつあるか。

ア　当該店舗の名称を変更したとき。
イ　業務を行う役員を変更したとき。
ウ　毒物又は劇物を貯蔵する設備の重要な部分を変更したとき。
エ　当該店舗における毒物又は劇物の販売に係る営業を廃止したとき。

１　なし　　２　１つ　　３　２つ　　４　３つ　　５　４つ

（問９）　毒物劇物営業者が、その容器及び被包に解毒剤の名称を表示したものでなければ販売することができない毒物又は劇物はどれか。

１　無機シアン化合物　　２　砒素化合物　　３　硫酸タリウム
４　有機塩素化合物　　５　有機燐化合物

（問１０）　法、政令及び省令の規定による農業用劇物の着色に関する次の記述について、（　　）にあてはまる語句として正しいものはどれか。

毒物劇物営業者は、硫酸タリウムを含有する製剤たる劇物をあせにくい（　　）色で着色しなければ、農業用として販売してはならない。

１　赤　　２　青　　３　黄　　４　緑　　５　黒

（問１１）　次の記述は、毒物又は劇物の譲渡手続に関する法第１４条の条文の一部である。（　ア　）～（　ウ　）にあてはまる語句の組合せとして正しいものはどれか。

第１４条　毒物劇物営業者は、毒物又は劇物を他の毒物劇物営業者に販売し、又は授与したときは、その都度、次に掲げる事項を書面に記載しておかなければならない。 １　毒物又は劇物の（　ア　） ２　販売又は授与の（　イ　） ３　譲受人の氏名、（　ウ　）及び住所（法人にあつては、その名称及び主たる事務所の所在地）

	（　ア　）	（　イ　）	（　ウ　）
１	名称及び数量	年月日	職業
２	保管場所	目的	職業
３	名称及び数量	年月日	年齢
４	保管場所	目的	年齢
５	名称及び数量	目的	年齢

（問１２）　次の記述は、毒物又は劇物の廃棄に関する政令第４０条の条文の一部である。（　ア　）～（　ウ　）にあてはまる語句の組合せとして正しいものはどれか。

> 第４０条　法第１５条の２の規定により、毒物若しくは劇物又は法第１１条第２項に規定する政令で定める物の廃棄の方法に関する技術上の基準を次のように定める。
>
> １　中和、（　ア　）、（　イ　）、還元、（　ウ　）その他の方法により、毒物及び劇物並びに法第１１条第２項に規定する政令で定める物のいずれにも該当しない物とすること。

	（　ア　）	（　イ　）	（　ウ　）
１	電気分解	酸化	稀釈
２	加水分解	加熱	稀釈
３	電気分解	加熱	冷却
４	加水分解	加熱	冷却
５	加水分解	酸化	稀釈

（問１３）　毒物又は劇物を車両を使用して運搬する場合で、当該運搬を他に委託し、その１回の運搬数量が 1,000 キログラムを超えるとき、その荷送人が、運送人に対し、あらかじめ交付しなければならない書面の記載事項に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。

> ア　毒物又は劇物の名称
> イ　毒物又は劇物の数量
> ウ　毒物又は劇物の製造所の名称及び所在地
> エ　事故の際に講じなければならない応急の措置の内容

１　なし　　２　１つ　　３　２つ　　４　３つ　　５　４つ

（問１４）　次の記述は、業務上取扱者の届出に関する法第２２条の条文の一部である。
（　ア　）～（　ウ　）にあてはまる語句の組合せとして正しいものはどれか。

第２２条　政令で定める事業を行う者であつてその業務上（　ア　）又は政令で定めるその他の毒物若しくは劇物を取り扱うものは、事業場ごとに、その業務上これらの毒物又は劇物を取り扱うこととなつた日から（　イ　）日以内に、厚生労働省令で定めるところにより、次に掲げる事項を、その事業場の所在地の都道府県知事（その事業場の所在地が保健所を設置する市又は特別区の区域にある場合においては、市長又は区長。第３項において同じ。）に届け出なければならない。

１　氏名又は住所（法人にあつては、その名称及び主たる事務所の所在地）
２　（　ア　）又は政令で定めるその他の毒物若しくは劇物のうち取り扱う毒物又は劇物の（　ウ　）
３　事業場の所在地
４　その他厚生労働省令で定める事項

	（　ア　）	（　イ　）	（　ウ　）
１	シアン化ナトリウム	３０	品目
２	シアン化ナトリウム	１５	品目
３	四アルキル鉛	３０	数量
４	四アルキル鉛	１５	数量
５	四アルキル鉛	３０	品目

（問１５）　特定毒物に関する次のア～エの記述のうち、正しいものはいくつあるか。

ア　モノフルオール酢酸は、特定毒物である。
イ　特定毒物研究者であれば、特定毒物を輸入できる。
ウ　特定毒物使用者は、その使用することができる特定毒物以外の特定毒物を所持してはならない。
エ　特定毒物研究者の許可を受けようとする者は、厚生労働大臣に申請書を提出しなければならない。

１　なし　　２　１つ　　３　２つ　　４　３つ　　５　４つ